

# 幼なぐさ (一)

臥雲

○  
あこちゃん(五歳)(一昨年の震災に母を亡つた)

おかあさんが五疊(母の部屋)でお仕事しながら「あこー」と仰つたことを思ひ出すと。といふからお思ひ出しになると淋しいといふのですか。ときくと。いゝえ獨りでに笑へて來るといふ。ママお可哀想に、大人なら思ひ出すと淋しいといふのに。あこちゃんは。其時嬉しかつたに。といふ事を思ひ出すとは。ほんとに小さい方は何といぢらしいのでせうと。側で涙をこぼすと。あこちゃんは。寄つてきて變な方ね。何ぜ泣くのといふ。だつて餘りお可愛らしいからよと。言ふと。あこちゃんらは悲しい時涙がでてよ。可愛らしいといふ時には、なかないのよ。

幼なぐさ

あこちゃん。そんなに澤山おかしをめし上ると。おなががわるくなりますよ。御病氣になつて死んだらどうしますかと。いふと。死ぬといひのよ。といふ。何ぜときくと。死ねばおかあさんの處へゆかれるから。

夏休に。あこちゃん。をつれて北陸に旅行した時。名古屋で一泊した。朝起きるとすぐ兩手をついて。結構な宿やでとめていたどきましてありがとうございます。(やどやで泊つたことが始めてどあつた)

あこちゃんの兄さんはいたづらざかりで。いくら言うても言うても同じことをくりかへしてはする。だからある日。そんなにいたづらばかりしては。いけないじやありませんか。幾度も幾度も。いつてもやめないと。よくよくわけのわからぬ男だねといふと。あこちゃんが側にきいてゐて

「坊ちゃん。」あこちゃんとおつむりをかへてあげませうか。

○

あこちゃん(六歳)に

おつむりをうつと、おばかさんになりますよ。といふと間もなく押入のふすまにあたまをおつゝけて、すぐ。ア、五と三と加へたら八になつた。ばかにならないでよかつた。

兄十歳

妹六歳(あこちゃん)

兄 朝目をさまして。僕は昨夜おかあさまの夢を見てよ。

姉 ソー何も仰らなかつたでせう。お逝くなりになつた

かたは。夢にでも何も言はないといひますから。

妹 だつて夢はさかゆめといふじやありませんか。

あこちゃん。或日「我等は日本男兒なり世界でえらいはわれらなりとうたつた。世界でつよいはといふのでせう。

あこちゃんはなかなかほさない世界でえらいはと言ふては人の顔をニヤリと笑ひながらみる。あこちゃんは強情ね。大人はあんまりべこべこ人のいふことをきくのはみつともない。しつかりした強情な處があるといふが。子供はすなほな方がよいね。といふと。あこちゃんどうせ大人になつて強情になるのがよいなら。子供の時からなつておけばいゝじやありませんか。

○

妹七歳尋常一年

姉八歳尋常二年

妹 おねいさん——おねいさんの級に。意地わるの人あ

姉 そんなそこと聞くものではありませんか。言ふのもい

やだし。いはれた人は。お氣の毒じやありませんか。

妹 朝洗面場で。何か女中にいつて女中を困らせてゐる。

姉 ——子さん。召使はいたはれ。と習つたじやありませんか。

妹 朝學校に行くのに出遅つて居ると。  
姉 子さん、また御心の御病氣でせう。

妹は學校で直視教授のある日は。おなかどいたいとか。おつむりがいたいとかいふ。而してあとでけふは直観べいがあるからいやだといふ。

## 東京女師幼稚園だより (二)

### 1 復舊設備

當幼稚園は震災後諸般の施設復舊に努力してゐたが、近時漸く相當の設備が出来るやうになつた。是等についての説明は適當の機會に發表して、幼稚園を新設せられる方の参考に供することに茲に新に制定せる保護者心得を掲載する。勿論保護者心得のことであるから、當幼稚園の保護者に對するものではあるが、多少の参考になるかとも考へるのである。この保護者心得は震災前のものを更に整

東京女高師幼稚園だより

姉妹で二月初めから。毎日毎日おひなさまかざつて頂戴く〜といふ。おつきの女中が奥様に伺つてから(丁度母は病中だつた)といふ。姉、アーア、アーアわたし早く奥様になりたいわ。そうすると早くからおひなさま飾つて。毎日〜お雛さまあそびするわ。

理して制定したもので、多年の経験から一應保護者の心得てよいことを簡単に發表したものである。保護者會と加入園式の際之を解説することが少くない。

### 2 保護者心得(東京女子高等師範學校附屬幼稚園)

當幼稚園ニ幼児ヲ入園セシメラレタ方ハ當幼稚園ノ保育方針ニ注意シ協力シテ幼児保育ノ目的ヲ達スルヤウニ努メラレタシ。

(一) 當幼稚園ハ幼児ノ保育ニ任ズルト共ニ幼兒保育法ノ